

現行の河川調書によると、ウツペツ川の流路総延長は、十一・七キメで、元来は突哨山に発して、現在は道央自動車道沿いに流れ、東鷹栖四線十三号から、春光台下の末広八条、春光七条、緑町二十丁目等を通り、近文駅とオサラッペ川の間で、オホーツナイ川を入れて、近文大橋の下で石狩川に流入している。

この川は、上川原野の殖民地調査までは、地図上に記載されることが殆どなかつた。明治二十年に上川原野の殖民地調査をした福原鉄之輔の復命書では、上川原野の三大樹林、すなわち、ボロニタヤ(poro-nitay)大きい・林)として、牛朱別川と忠別川の間の「ウシ・ベツボロニタヤ」(丸木船材ハ常ニ之ヲ此地ニ得ルト」と記録)、ウツペツ川沿いに突哨山の麓までが、「ウツペチボロニタヤ」(これに接し、オサラッペ川上流で鬼斗牛山の麓に横たわる「ヲサラツペボロニタヤ」である。これらは、上川の十三原野の殖民地に組み込まれ、「ウツペチボロニタヤ」は、「ウツペチ原野」と名称を変えた。

## 高橋 基

(19)

# 旭川のアイヌ語地名研究

## —ウツペツ川とウツナイ(上)—

地図——明治三十一年製版  
「北海道仮製五万分一図」



平林にして、其面積四百万坪、拂、赤楊、及びその他の雜木にして概測に拠れば、壹百拾四万石許の材あり。此地は石狩川を去る纔に五丁乃至十丁にして、且つ、本川(註・石狩川)と平行すれば、運輸至便と云ふも不可なるべしと信ず」と、原始の姿を伝えている。これがウツペツ川の現存する最も古い記録である。

明治二十三年に旭川を調査した永田方正は、「ウツナイ(ut-na-i 脇川)——オサラッペツノ脇ヨリ大川ニ入

ル」と記録した。すなわち、ウツペ

ツ川は、「ウツナイ」と言い、「脇川」と訳し、オサラッペ川の脇から石狩川に流入していると書いている。

右の知里のウツナイの説を、地図

のウツペツに当てはめると、「湿原を

流れて来て直接本川(註・石狩川)

に入らずに他の川(註・オサラッペ

川)の横腹に肋骨がくつつくかのよ

うに横から注いでいるもの」となつ

て、典型的な「ウツペツリウツナイ」といえるのである。しかし、これが

「ナイ」は、その川がどの川に合流するかが、川名の由来として問題となる川なのである。

昭和三十五年に知里真志保は、上記の地図の二つの川名について次のように解説している。

①ポン・ウツペツ「pon-utpet 小さい・やち川——ウツペツ(ut-pet 肋・川)については次項参照。」

②オホウツナイ「oho-utnai 深い・やち川——急言してオホツナイ(ohotnai)ともよぶ。ウツナイ(ut-na-i 脇・川)は、湿原を流

れて来て直接本川に入らずに他の川

の横腹に肋骨がくつつくかのように

横から注いでいるもの。よく横川、

脇川などと訳される。」

掲載の地図は、アイヌ語地名研究では必携の明治三十一年製版の五万分の一図である。この地図では、「ウツペツ」は、直接石狩川に入らずに、オサラッペ川に注いでから石狩川に流入している。実は、「ウツペツリウツナイ」といえるのである。しかし、これが

眞実かは次回に検証する。

福原の復命書では、「ウツペチ川(註・ウツペツ)に跨り、東北・突所山麓に達する

オサラッペ川に注いでから石狩川に流入している。実は、「ウツペツリウツ